

「ネットワークを活用した児童生徒間交流」

沖縄県立鏡が丘養護学校
教諭 内間 秀樹

1 目 標

沖縄県立学校ネットワークの有効活用を行うことにより、コミュニケーション能力の向上をめざす。

2 仮 説

施設や養護学校に在籍する児童生徒にとって、在籍数の少なさや限られた生活環境が要因となり、自らすすんで他へ関わる機会やコミュニケーションの経験不足を引き起こすと考えられる。そこで活用できるネットワーク環境があればそれを活用した社会参加を体験させ、さらに県内肢体不自由養護学校の児童生徒同士が交流することでコミュニケーション能力の向上を図ることができると考えた。

3 授業実践

- ・ 6月――文字の入力をしよう (※1)
 - ・ 7月――文字の入力をしよう (※2)
 - ・ 9月――掲示板・メール・チャットに関する説明とネチケットの学習
 - ・ 10月――校内チャットの練習・掲示板書き込み練習 (グループウェア使用)
 - ・ 11月――掲示板でのメッセージ交換 (グループウェア使用)
- (※1) 台本を見て文字を打ち込む作業の練習
(※2) 耳から聞いた文章を打ち込む作業の練習

4 ネットワークの有効活用によって

- (1) コミュニケーション能力の向上
- (2) コンピュータ操作・活用能力の向上
- (3) 基礎・基本的事項の定着

5 今後の展望

- (1) 実際に会う場を設定
- (2) 特殊教育現場すべてにおける活用
- (3) 県外へのネットワークの拡大

6 今後の課題

- (1) グループウェアのネットワーク ID の充実
- (2) 事前の教師間の連携・ネットワークの充実
- (3) コンピュータ環境の充実 (未敷設校)

